

A-63 農山村の生活実態調査と生活改善指導  
(第2報)

——宮崎県東臼杵郡椎葉村大河内地区——

純真女子短大 西沢 照  
○馬場 理子

I 目的：1957年に宮崎県東臼杵郡椎葉村の生活実態を調査し、報告した。今回はその資料に基づき5年後の1962年において、かつての生活改善指導の効果が村民の生活の上にかに表われているかを知らんとし、再び同地域の村民の食生活並びに小学校児童の健康状態や住居、商品の状態等についても調査し、検討した。

II 方法 調査対象は主に農業及び林業を職業とする家で総世帯数95戸、総人員424人、調査期間は季節を通じての変化をみるために春(4月)、夏(8月)、秋(10月)とし、各回とも連続した4日間とした。

III 成果 本村の成人1人1日当たりの食品群別摂取量をまとめ5年前と比較してみると、農山村の特徴ともいふべき乏しい動物性食品の摂取量が倍量に増加しているのが目立った。植物性食品の摂取では依然として穀類・芋類・豆類が大きく占め、以前特色でもあった雑穀が半減している。その他果実類、砂糖類、油脂類等多くなったが充分ではなく、従って栄養摂取量でも同様である。かつてのランプ生活が電灯のある生活に変わり、小学校も鉄筋コンクリート造りの近代的なものとなり、ミルク給食も始まっている。商品も訪れる毎に、特に食品は種類とその数を増し、村民の服装も町のそれと近い。以上のことから大部分が自給自足の生活でありながら質的にも量的にも良くなってきていることは明らかであり、調査、生活改善指導の効果は相当あったものと考えられる。